

富士山噴火時避難ルートマップ(静岡県)



写真提供:静岡県観光協会

登山の際は

- 最新の火山情報をチェックしましょう。
(下記QRコードより気象庁HPへ)
- 登山届を提出しましょう。
(下記QRコードより全国オンライン登山届「コンパス」へ)
- 緊急速報メールを受信できるように携帯電話の電源は入れておきましょう。
- ヘルメットを着用して登山しましょう。

火山情報は、こちらから

全国オンライン登山届コンパスはこちらから



登山者の皆様へ

このマップは、富士山の突発的な噴火に備え、登山者や関係者の方々に噴火時の避難行動の目安としていただけるよう作成したものです。【平成28年3月現在】

噴火が予想されたとき、又は下山の指示があったときは

- 緊急速報メールや山小屋などから情報を得ましょう。
- 速やかに下山を開始し、想定火口範囲(マップの水色エリア内)の外に出ましょう。

噴火に遭遇したときは

- 噴火場所を確認し、遠ざかるよう速やかに避難しましょう。
- 火口の近くでは大きな噴石が飛んでくることがあります。
避難が間に合わない時は山小屋や岩陰に隠れて身を守りましょう。
- 避難に際しては、裏面の「富士山噴火時避難パターン」を参考に、ルートを選定しましょう。
- その際、なるべく火口の下流方向、風下、谷地形、窪地には行かないよう避難しましょう。
- 状況によっては登山道から離れて待機したり、別の登山道へ向かいましょう。

このマップの問い合わせ先

静岡県 危機管理部 危機情報課

住所: 静岡県静岡市葵区追手町9-6 電話: 054 (221) 3366

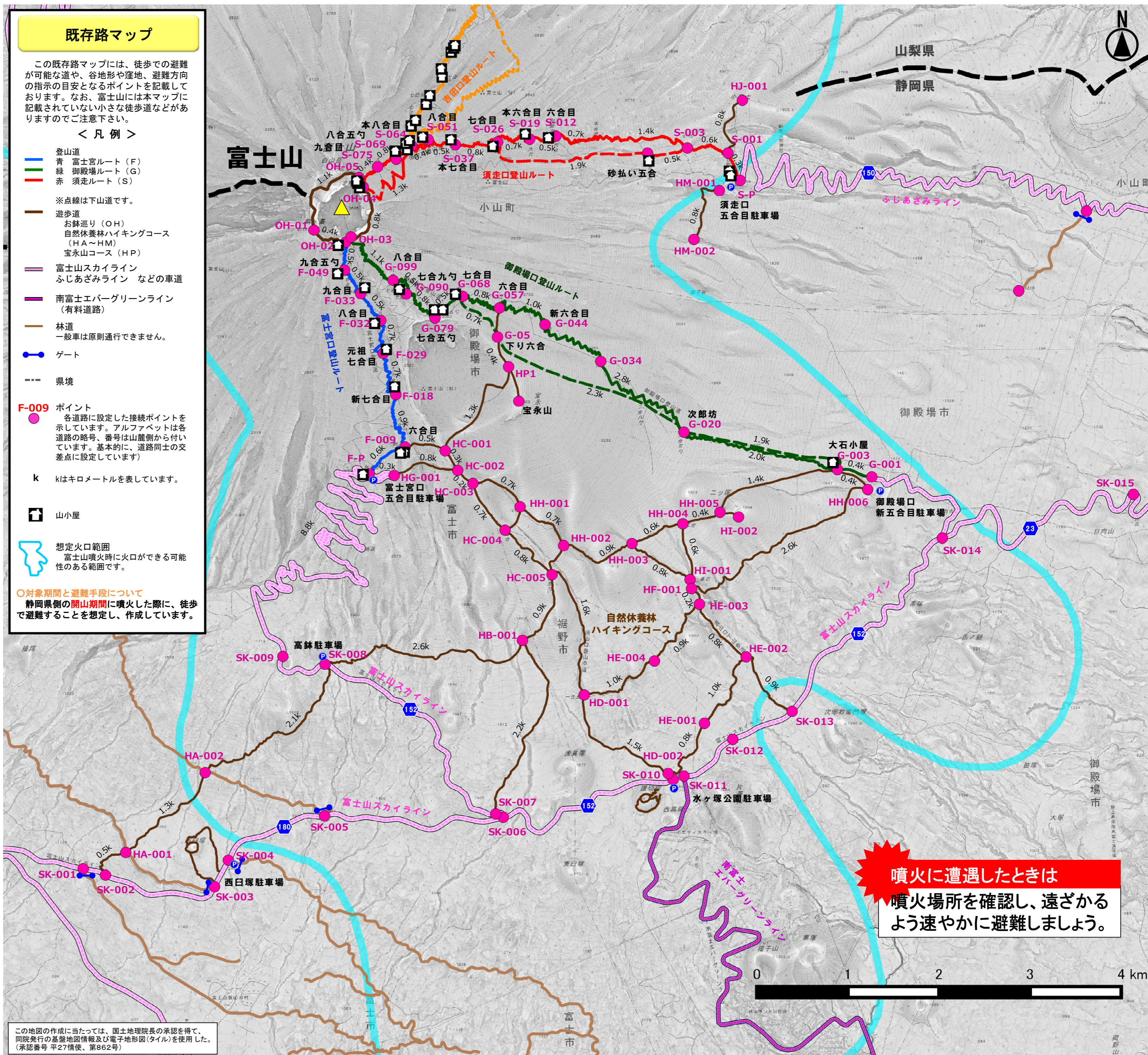
既存路マップ

この既存路マップには、徒歩での避難が可能な道や、谷地形や窪地、避難方向の指示の目安となるポイントを記載しております。なお、富士山には本マップに記載されていない小さな徒歩道などがありますのでご注意ください。

< 凡例 >

- 登山道
- 青 富士宮ルート (F)
- 緑 御殿場ルート (G)
- 赤 須走ルート (S)
- ※点線は下山道です。
- 遊歩道
 - お鉢巡り (OH)
 - 自然休養林ハイキングコース (HA~HM)
 - 宝永山コース (HP)
- 富士山スカイライン
 - ふじあざみライン などの車道
- 南富士エバーグリーンライン (有料道路)
- 林道
 - 一般車は原則通行できません。
- ゲート
- 県境
- F-009 ポイント
 - 各道路に設定した接続ポイントを示しています。アルファベットは各道路の略号、番号は山麓側から付いています。基本的に、道路同士の交差点に設定しています
- k kはキロメートルを表しています。
- 山小屋
- 想定火口範囲
 - 富士山噴火時に火口ができる可能性のある範囲です。

○対象期間と避難手段について
静岡県側の開山期間に噴火した際に、徒歩で避難することを想定し、作成しています。



噴火に遭遇したときは
噴火場所を確認し、遠ざかるよう速やかに避難しましょう。

この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報及び電子地形図(タイル)を使用した。(承認番号 平27情使、第862号)

富士山噴火時避難パターン（静岡県）

前提とする噴火のイメージ

- 前兆現象（地震）の発生**
噴火の前兆現象として、火山性地震の観測回数が増えたり、地殻変動が観測されたりする場合があります。また、地面に亀裂が生じることもあります。
- 噴火の開始（最初の火口形成）**
最初の火口が形成され、噴煙が立ち上り、噴火が開始します。
- 噴火の活発化（火口列の形成）**
溶岩が流出し始め、火口周辺に溶岩のしづきが堆積します。また、大きな噴石は火口から1km程度まで到達します。さらに噴火が活発化して、上下へ火口列が拡大します。
- 火山灰の降下**
火口列の一部または全体から噴火が始まり、風下側では火山灰が降り積もります。夜のように暗くなります。
- 溶岩流（火砕流）の流出**
溶岩流や火砕流が流出し、山麓へ流下します。溶岩流の速度は比較的遅いですが、火砕流は高速で流下します。
- 噴火の沈静化**
噴火が収まると、溶岩が冷えて固まります。降灰後に雨が降ると、土石流が発生する可能性があります。

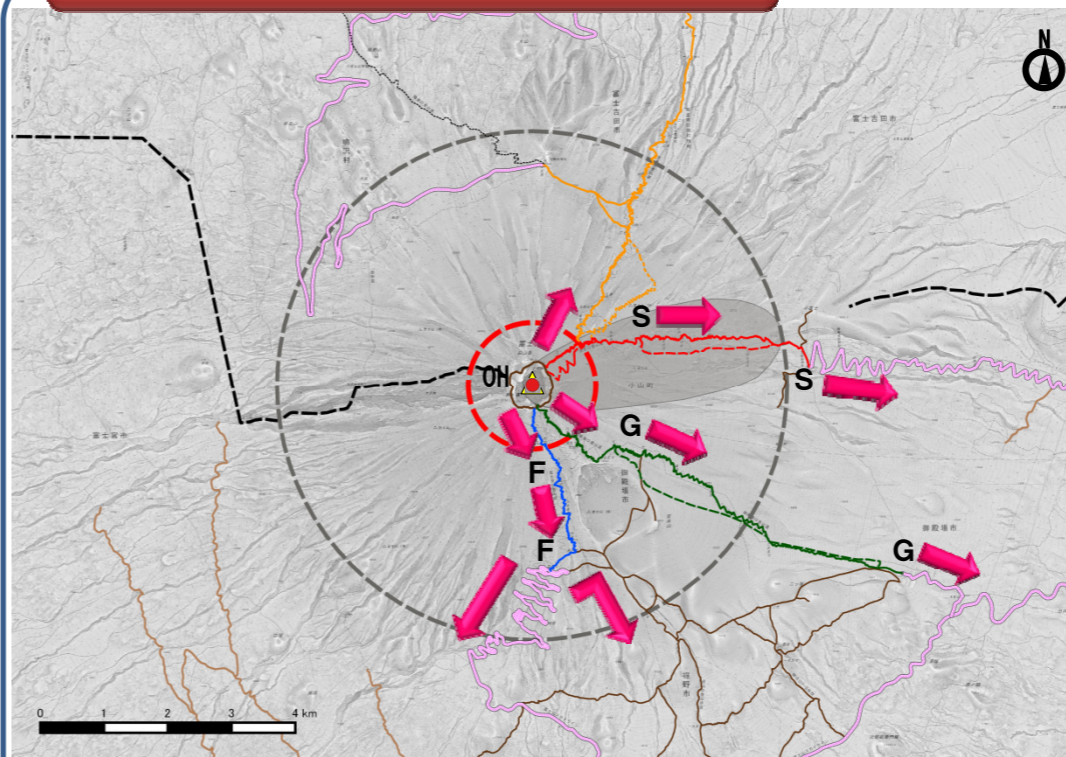
図の見方と記号の意味

この避難パターンは、富士山の静岡県側で突発的な（前兆現象がない、あるいは、前兆現象があっても噴火開始までの時間が著しく短い）噴火が起こった場合に、被害が予想される範囲から一刻も早く離れることを前提として作成しています。

※ 想定される現象は、富士山での代表的な噴火パターンを整理したものであり、必ずここで噴火することを示したものではありません。

- OH** → 噴火しそうな時、噴火が始まった時に避難すべき方向
第一に、火口列から離れる方向かつ噴石の到達範囲外に出ることを目指します。その後、安全な方向に避難することとします。記号は、噴火開始時における場所を示してあります。OHは山頂（お鉢巡り）、Fは富士宮ルート、Gは御殿場ルート、Sは須走ルートを表しています。
- （紫色実線）** 火口列の位置（紫色実線）
本避難パターン作成時に前提とした火口の位置です。富士山で噴火した場合には、単一の火口ではなく、いくつもの火口が繋がった火口列を形成する場合があります。
- （赤点線）** 大きな噴石が到達する可能性がある範囲（火口から1kmを想定しています。）
- （点線）** 火山灰が2時間で1cm程度降り積もる可能性がある範囲
- （灰色）** 7～8月に卓越した風が吹いた場合に、火山灰が2時間で1cm程度降り積もると予想される範囲
- （茶色）** 溶岩流が流れ下る範囲
過去に溶岩流が流れ下った範囲を参考に作成しています。この通りに流れない場合もあります。溶岩は比較的ゆっくりと流れるため、すぐに危険になるわけではありません。

避難パターンⅠ【頂上】



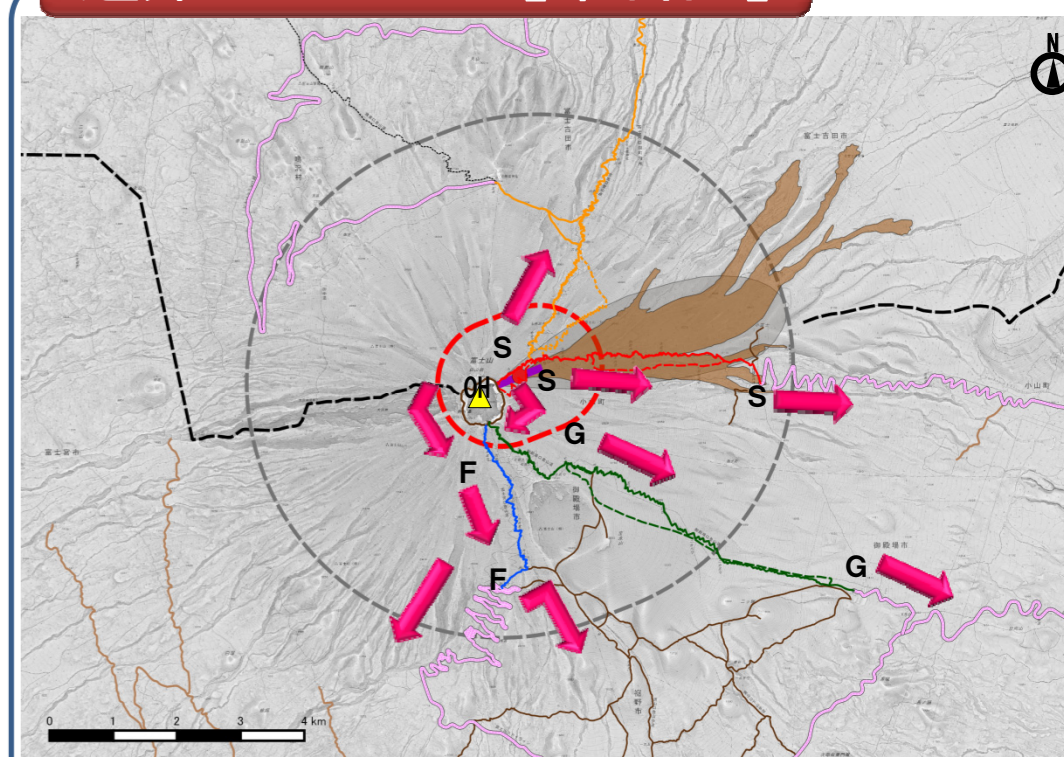
想定される現象

- 山頂火口からの水蒸気噴火を想定
- 山頂火口周辺に大きな噴石や火山灰が降下

避難する方向
(地図中の記号に対応)

OH山頂付近の登山者は、噴火が収まるまで近くの山小屋等に避難し、噴火が落ち着いた後で近くの登山道から下山
F富士宮ルートにいる登山者は、噴火の状況に留意し、そのまま下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインまたは遊歩道で避難する
G御殿場ルートにいる登山者は、噴火の状況に留意し、そのまま下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインを御殿場方面へ避難
S須走ルートにいる登山者は、噴火の状況に留意し、そのまま下山、5合目付近の観光客はふじあざみラインで避難

避難パターンⅡ【東斜面】



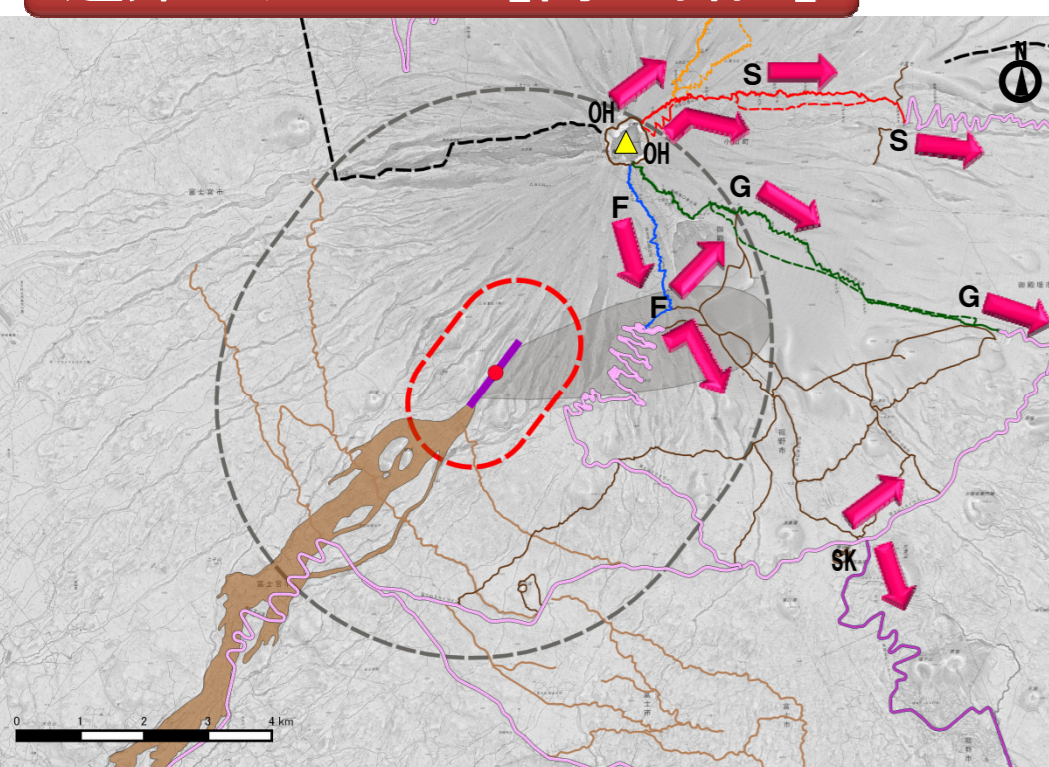
想定される現象

- 約1,000年前の噴火（須走口2溶岩流が流出）を想定
- 火口列によって須走ルートが分断。溶岩流によって須走ルートとふじあざみラインが分断
- 火口列から流出する溶岩流は、東北東方向に流下

避難する方向
(地図中の記号に対応)

OH山頂付近の登山者は、富士宮又は御殿場ルートを下山
F富士宮ルートにいる登山者はそのまま富士宮ルートを下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインで富士宮方面へ避難、もしくは遊歩道で水ヶ塚駐車場へ行き南富士エバークリーンラインで避難
G御殿場ルートにいる登山者はそのままのルートを下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインを御殿場方面へ避難
S須走ルートにいる登山者は、須走または吉田ルートを下山、5合目付近の観光客は富士あざみラインで避難

避難パターンⅢ【南西斜面】



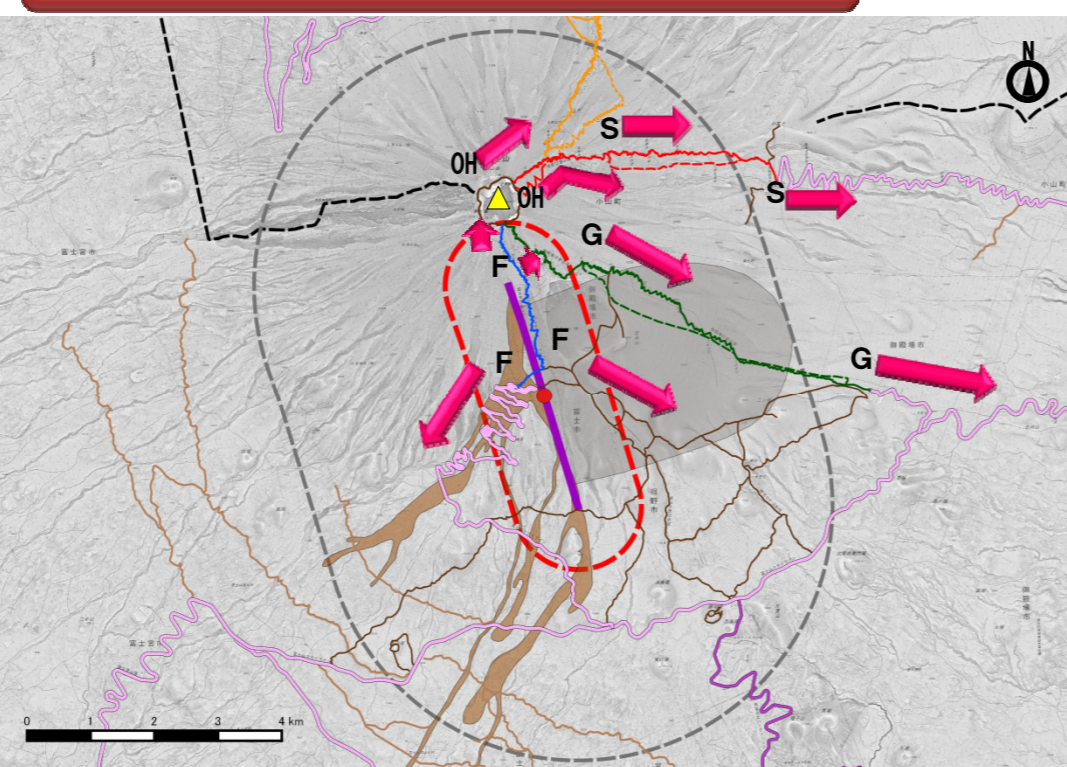
想定される現象

- 約1,600年前の噴火（青沢溶岩流が流出）を想定
- 溶岩流により富士山スカイラインが分断
- 火口列から流出する溶岩流は、南西方向に流下

避難する方向
(地図中の記号に対応)

OH山頂付近の登山者は、須走または吉田ルートを下山
F富士宮ルートにいる登山者はそのままのルートを下山、5合目付近の観光客は、遊歩道を利用し御殿場ルート、または水ヶ塚駐車場方向に避難
G御殿場ルートにいる登山者はそのままのルートを下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインを御殿場方面へ避難
S須走ルートにいる登山者はそのままのルートを下山、5合目付近の観光客はふじあざみラインで避難
SK水ヶ塚駐車場からの避難時には、御殿場方面へ富士山スカイライン、または南富士エバークリーンラインを利用

避難パターンⅣ【南斜面】



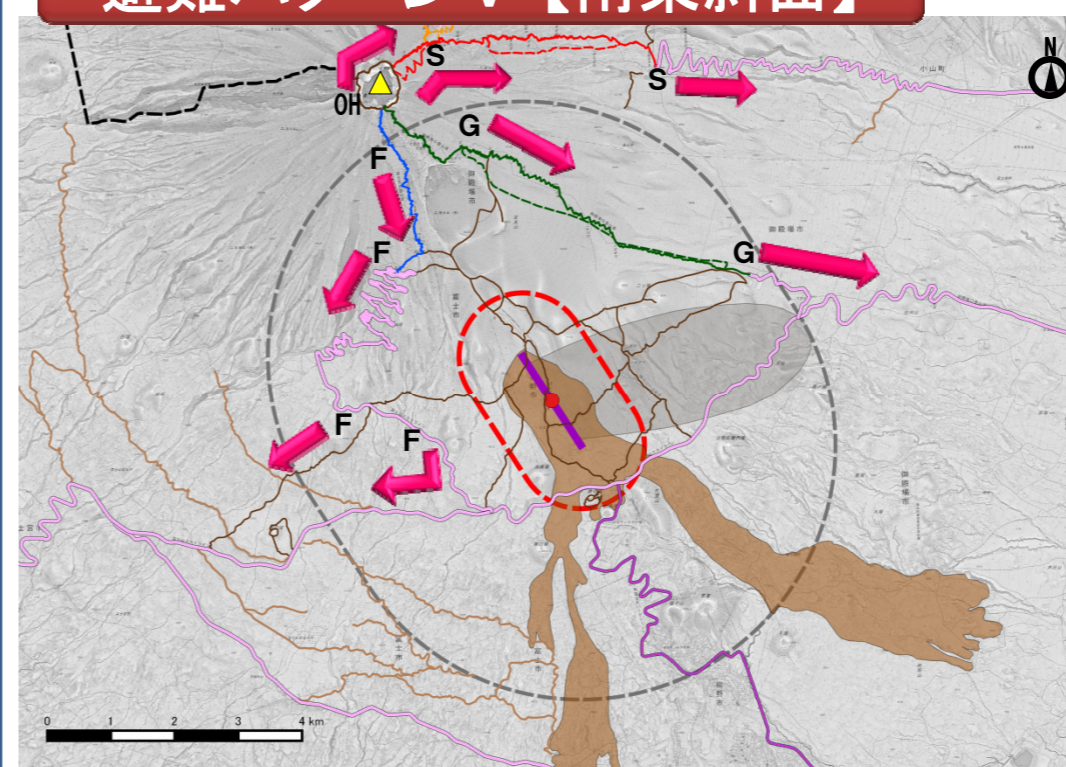
想定される現象

- 約1,100年前と1,000年前の噴火（不動沢・日沢溶岩流が流出）を想定
- 火口列により富士宮ルート、溶岩流により富士山スカイラインが分断
- 火口列から流出する溶岩流は、南方向に流下

避難する方向
(地図中の記号に対応)

OH山頂付近にいる登山者は、須走もしくは吉田ルートを下山
F富士宮ルート7合目より上部にいる登山者は、山頂方向もしくは御殿場ルートへ避難、7合目以下にいる登山者は、遊歩道を経由し御殿場ルート方向へ避難、5合目付近にいる観光客は、噴火の状況に留意して、富士山スカイラインを南方向に避難
G御殿場ルートにいる登山者はそのままのルートを下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインを御殿場方面へ避難
S須走ルートにいる登山者は、そのままのルートを下山、5合目付近の観光客はふじあざみラインで避難

避難パターンⅤ【南東斜面】



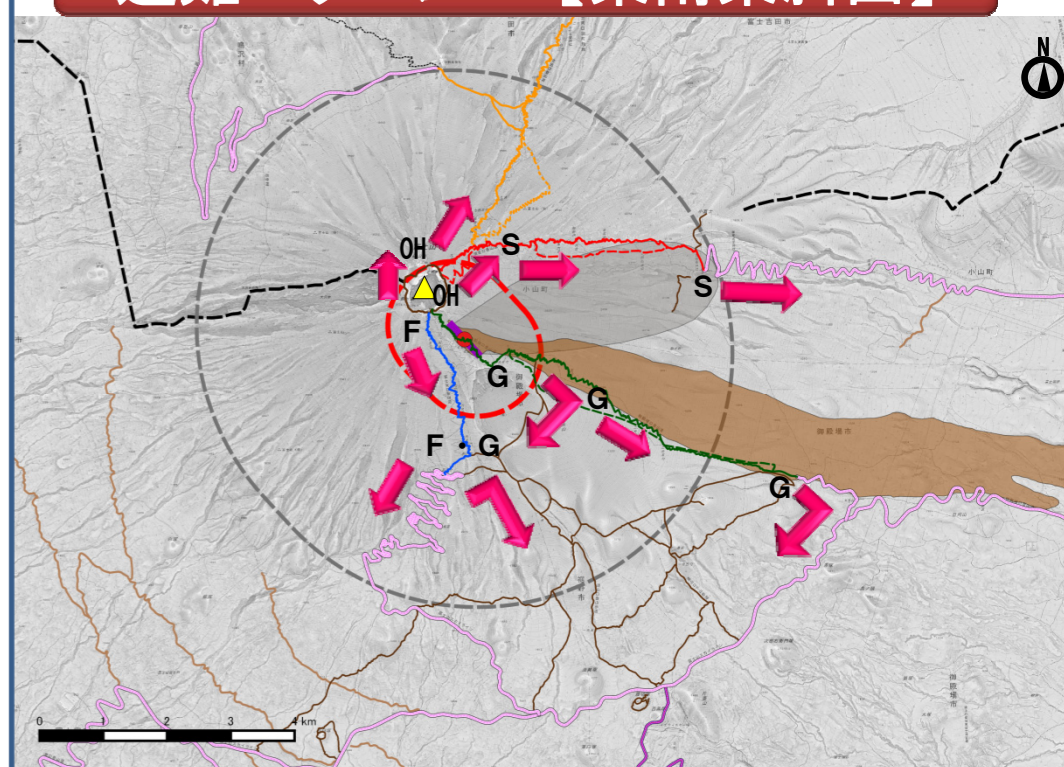
想定される現象

- 約2,200年前と1,100年前の噴火（小天狗溶岩流、水ヶ塚檜丸尾溶岩流が流出）を想定
- 溶岩流によって、富士山スカイラインが分断
- 火口列から流出する溶岩流は、南東方向及び南方向に流下

避難する方向
(地図中の記号に対応)

OH山頂付近にいる登山者は、須走もしくは吉田ルートを下山
F富士宮ルートにいる登山者はそのままのルートを下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインや遊歩道で南西方向へ避難
G御殿場ルートにいる登山者はそのままのルートを下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインを御殿場方面へ避難
S須走ルートにいる登山者は、そのままのルートを下山、5合目付近の観光客はふじあざみラインで避難

避難パターンⅥ【東南東斜面】



想定される現象

- 約2,000年前の噴火（雄鹿口溶岩流が流出）を想定
- 火口列によって御殿場ルートが分断。溶岩流によって御殿場ルートと富士山スカイラインが分断
- 火口列から流出する溶岩流は、東南東方向に流下

避難する方向
(地図中の記号に対応)

OH山頂付近にいる登山者は、須走もしくは吉田ルートを下山
F富士宮ルートにいる登山者はそのまま富士宮ルートを下山、5合目付近の観光客は富士山スカイラインで富士宮方面へ避難、もしくは遊歩道で水ヶ塚駐車場へ行き南富士エバークリーンラインで避難
G御殿場ルート6合目以上の登山者は、宝永火口を経由して、富士山スカイラインまたは遊歩道で下山、6合目より下にいる登山者は、そのままのルートを下山し、富士山スカイラインを富士宮方面へ避難
S須走ルートにいる登山者は、そのままのルートを下山、5合目付近の観光客はふじあざみラインで避難